

# 平成十九年 年頭の御挨拶



新発田商工会議所  
会頭  
藤田加津栄

新年明けましておめでとう  
ございます。

平成十九年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。さて、昨年の日本全体としての景気は、製造業を中心にようやく明るい兆しを見せはじめ、民間設備投資の拡大や、大手企業においては、今までにない高額の株式配当を出すなど好調な反面、中小、特に地方の小規模零細企業は、まだまだ厳しい経営環境下に置かれている状況にあります。



新発田市長  
片山 吉忠

明けましておめでとうござ  
います。

皆様におかれましては、平成十九年の新春をお健やかに  
お迎えのこととお慶び申し上げ  
ます。

昨年を振り返りますと、市民の皆様が待ち望んでおられました新しい県立新発田病院が十一月に開院し、それに伴い、市内を循環し新発田駅と

そして結果、中央と地方、大企業と中小企業の格差はますます大きくなったものと思  
います。

このような中、新発田商工会議所も「地元産業の振興」と「街づくり」を最優先課題としてとらえ、昨年十一月には大栄町に県・市の支援をいただきながら中心商店街の空き店舗を活用し、敬和学園大学と商店街が連携し事業を行う、まちの駅よろず「新発田学研究センター」を開所することができました。このセンターでは学生と市民の交流や共同作業を通して、商店街の活性化や高齢者問題そして新発田の歴史を調べ発信する事業を展開していますので、ぜひ市民の皆様もお立ち寄りいただきたいと思います。

市内各所を結ぶ循環バスの運行が開始されたことで、新発田の玄関口である新発田駅前  
の景観や従来の人の流れにも変化が生じるなど、まさに新しい新発田の姿が「誕生」した年となりました。また、同じく十一月に第二のまちの駅  
であります「まちの駅よろず」が商工会議所のご尽力により開所され、産学官の連携強化に  
ぎわい創出効果が期待でき、これも「まちづくり」と  
とって明るい要素となりました。

また、商工会議所では現在、地域資源を活かした新事業全国展開支援プロジェクトに取り組んでおり、「露谷虹児」をイメージした新商品開発事業の研究を行っております。この事業には地元出身のデザイナーの「鈴木直之さん」はじめ関係者より協力をいただき、より市場性のある商品となるよう開発を進めており、最終的には市内の企業に参画いただき、新発田発のオリジナル商品を発信してゆく予定です。市民の皆様も楽しみに待っていていただきたいと思  
います。

従来から行っております「経営革新」に意欲ある方々を支援するための相談機能の充実をはかることはもとより、事業所の立場に立った支援をすべく事業を展開しておりますが、まだまだ、相談内容が多岐にわたるため、全てに対応しきれない面もあります。平成十九年は、より一層相談・支援体制を強化し、地域中小企業の皆様の頼れるパートナーとなつてまいりたいと思  
います。

今年は、新発田商工会議所六十周年に当たる年であることから、今まで以上に商工会議所としての立場から「産業振興」「街づくり」など、地域総合経済団体としての立場から、地域の企業そして市民の皆様と共に考え、行政はじめ関係機関との連携により事業を行ってまいりますので、引き続き皆様よりの、ご支援ご協力をお願い申し上げます。新年の挨拶と致します。

けながら商工業の振興を図つてまいりたいと思  
います。

本市の商工業振興、地域経済活性化のため、今後も商工会議所との連携強化を図りながら各種施策を推進してまいりますので、皆様のなご一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新発田商工会議所が会員の皆様方にとりまして、輝かしい一年となりますよう心から祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。